

■申請資格に関すること

Q. 最短修業年限を超えた受給は可能でしょうか？

→在学期間（休学を含まない）が最短修業年限を超えない場合は可能です

Q. 学振との比較について説明があると助かります

→BOOST は履歴書に書けなくても経済支援は手厚いようです

→阪大次世代（SPRING）のFAQも見てください

Q. 学振特別研究員であっても応募し、採用され次第こちらのプロジェクトに移行することは可能でしょうか？

→支給期間において学振特別研究員である人は応募できません

Q. 現在、次世代研究者挑戦的育成プロジェクトに採用されている場合、本プロジェクトへの申請は可能でしょうか？

→支給期間において採用されている人は応募できません。なお、採用前の併願は可能です

Q. 次世代研究者挑戦的研究プログラムと次世代 AI 人材育成プログラム、両方に採用された場合、どちらに受けるかを選択することはできますか？

→次世代 AI 人材育成プログラムを選択していただきます

■申請書類に関すること

Q. 書類を持参して出願できますか。

→できません。郵送で出願してください。

Q. AI 融合研究に関してですが、現在、行っている自分の研究テーマを使うのではなく、全く新しい研究テーマを作り出すことになるのでしょうか。

→はい、そうです。融合研究に関しては、グループで国際会議での発表をお願いする予定です。

→主たる研究とは別のものであり（二重投稿でないこととみなせる成果があり）、学問あるいは分野として何と何が融合した研究であるのかをご説明いただければよいです。

→例えば、ロボットの機械的な機構を主たる研究としている人が、AI 技術を使って何かしら機構を最適化した、というようなものはよいと考えます。主たる研究は機械工学のみ、AI 融合研究は AI×機械工学 と説明できます。

Q. 研究計画書を英語で作成してよいですか。

→構いませんが、本プログラムは主に日本語で実施します。

■選抜に関すること

Q. AI 領域に関する実践が全くない学生でも、採択される可能性があると考えられますか。

→可能性がないとは言えません。単に AI を使うのではなく、アルゴリズムなどの AI 技術を開発できる博士人材が求められています。

■採用後に関すること

Q. 指導教員のタスクを教えてください

→少なくとも以下はお願いする予定です。

- ・毎年 10 月頃の GPI スキル審査

対象：指導学生

内容：指導学生の能力をウェブでスコア付けする

- ・初年度 1 月頃の中間審査

対象：指導学生に加え、他研究科のプロジェクト生 1 名を予定

内容：書面と面接による審査

- ・学位修了時（1 月頃）の最終審査

対象：指導学生に加え、他研究科のプロジェクト生 1 名を予定

内容：書面と面接による審査

- ・融合研究に関する指導

対象：指導学生の所属するグループ

内容：グループで実施する融合研究に対するメンタリング（必要に応じて）

（グループによる自主的な研究活動が原則です）

Q. 指導教員は、教授ではなく、実質の指導教員（例えば、准教授）でもよいですか。

→実質の指導教員で構いませんが、上記 Q. のタスクをご担当いただける先生をお願いします。

Q. 毎週特定の日は大学病院で臨床業務があります。週一回の勉強会に関して配慮はありますでしょうか。

→プロジェクト生の事情をお聞きして日程を決める必要があると思っておりますが、現時点では原則対面でのランチセミナーを想定しています。ただし、豊中地区の学生さんもいらっしゃるでしょうから、オンライン参加や録画による対応も個別に想定しています。

Q. 毎週金曜日には必ず、生活費を稼ぐためのアルバイトに行っていますが、週一回の勉強会を含めて、プログラムには支障がないでしょうか。

→BOOST はアルバイトなしで研究に専念していただくための事業です。

Q. BOOST に採用されたのち、学振特別研究員の採用が内定した場合、どうすればよいでしょうか。

→BOOST と学振特別研究員を同時に重複受給することはできません。どちらか一方を辞退してください。

■研究費等に関すること

Q. 活動計画のための経費は、自分の研究テーマに使用できるのでしょうか。

→AI 人材を育成するための事業ですので、AI に関連する研究テーマで経費をご計画ください。